

報道関係者各位

令和4年7月12日

赤れんが博物館の臨時休館について

- ・赤れんが博物館において、1階常設展示「世界のれんが」展示替えのため、下記のとおり臨時休館いたしますのでお知らせします。
- ・今後、2階の常設展示「舞鶴市とれんが」部分についても展示替えを予定しており、詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。

記

1. 臨時休館の期間：令和4年7月19日（火）～7月22日（金）
2. 展示替えの内容：展示ケース（エアタイト）の増設、「中国文明」展示の充実
3. 主な展示替え資料：
 - ・羊浮彫埴（後漢時代）
 - ・獅子浮彫埴（南北朝時代）
 - ・鷺と蓮の埴（宋時代）
 - ・チョガ・ザンビル出土楔形文字入りれんが（紀元前1275～1240年）など※いずれも今回、新しく常設展示に加えるもの（詳細別添のとおり）



【主な展示資料】

中国で使用されたれんが「塼」（せん）

中国におけるれんがは、遅くとも 4000 年前には、黄河流域の龍山文化晩期に住居に日干しれんがの使用がみられます。焼成れんがの出現はやや遅れるものの、出土例の増加する戦国時代（前 403～221 年）以降は次第に身近な建築材料となっていくます。このうち、焼成れんがを陶板などとともに「塼」と呼び、現在にいたるまで中国における主要な建築材料として用いられています。

さまざまな画像塼（がぞうせん）

塼にはさまざまな用途があるなかで、漢代以降において重要な使用例といえるのは塼で造営された墳墓です。中が空洞の空心塼（くうしんせん）には風景や神話を題材にした浮彫や紋様が施されていることから「画像塼」ともいい、当時の社会生活や思想を知る手がかりとなります。



羊浮彫塼 後漢時代（1～3 世紀） 河南省
「斗拱」（ときょう）と呼ばれる、軒を支えるための部材であったと考えられています。



獅子浮彫塼 南北朝時代（4～5 世紀）
獅子は墓を守り邪悪なものを祓う「鎮墓獸」（ちんぼじゅう）と考えられていました。



鶯と蓮の塼 宋時代（10～13 世紀） 陝西省
蓮の花は伝統的に純潔、清廉の象徴とされてきました。図柄が鶯と蓮の組み合わせの場合は「旅路が幸福であるように」との意味が込められています。

